

『一切設利羅集』零本、影印・解説

牧野和夫

はじめに

ここに全文を影印し簡略に書誌的な紹介を試る書物は、山岸文庫の蔵する古写の一本である。内題に「一切設利羅集巻第□四 大江親通撰集」とあり、これを信ずるならば、平安後期の儒者大江親通の撰した『一切設利羅集』巻□四の零本一帖であることが知られる。

大江親通の閏歴は、『本朝新修往生伝』に次の如くあり、概ね知ることができぬ。

〔四一〕学生大江親通者。左京人也。為人質朴少文。然猶能草書。家無産業。恬澹。養〔譚卷〕性。雖身接俗間。而心歸仏界。道俗男女。志在菩提之者。不論上下。不謂老少。固〔固辞〕締金蘭之交。唯〔虫損。内本〕談白蓮之縁。衣服飲食。随求給仕。

語親友曰。我等〔不〕值正法。生在濁世。冥々生死。出離何日。彼双樹花落。栴檀煙尽以來。時累千祀。境隔万程。当于斯時。若得礼釈尊之舍利。即為見如來之全身。故發別願。欣求舍利。經論中若有説舍利功德之文句。抄而集之。遠自天竺。近至日域。視聽所觸。莫不記錄。合為三十卷。名曰駄都抄。更語人曰。舍利神變。近在室中。先年我披一文函。得六丸玉。大如小豆。其色黯然。人以〔知〕。為自然物。或曰。似仏舍利。祈而知虛実。即安仏前。屢供養香花。漸歷日月。玉増員〔虫損〕。内本〔数〕。其貌微少。其光照耀。已表瑞相。遂知其実。若有欣求之人。依請施与。把而不尽。其数如本。或時隨取相連。如以糸貫珠。神變化可謂奇異矣。或有貴〔虫損〕。内本〔女〕。道心純熟。早帰仏道。已為禪尼。〔尹〕〔虫損〕。内本〔中納言息女〕。号之尹尼。上〔虫損〕梵行積功。世間無比。保安之比。忝彼顧問云。我室中仏壇上。舍利出現。殊動感懷。翌日夢中。有人示曰。早命親通。聞知舍利之本縁。流布世間。同得利益。夢覺問之。不知其人。或僧云。親通者洛都人也。字江榮是也。室在大内寮。〔正親町櫛匣小路辺〕後日尋到其所。適謁其人。親通忽承禅命。成希有思。殊凝信心。奉請舍利。事之嚴重。默而不罷。知識衆人。奉造金色二尺五寸釈迦仏像。〔二尺寸五者擬〕〔虫損〕。内本〔二十五有也〕。像中安舍利。以為仏全身。見聞隨喜。都人成市。隨力所堪。供養布施。親通発願曰。以此惠業。廻向法界。与諸衆生。同成仏道。滿座聞之。歡喜信受。皆垂涙曰。不図今日復〔値〕如來之教化。親通德行如是。誰敢間疑。然自至少老。称念弥陀。每日六万返。以之為勤。暮年出家。〔失名〕〔虫損〕具足淨戒。勇猛精進。油〔虫損〕鉢不傾。仁平元年十月十五日卒去。臨終正念。得〔虫損〕極樂迎。紫雲正聳。白日見之。

〔岩波思想大系『往生傳法華驗記』に拠る〕

即ち、本零本は、經論中から天竺・震旦・日域の舍利（設利羅、駄都とも）に関する一切の文献を蒐集・記録した『駄都抄』三十巻の零本にあたるものか、と考えられる。従つて、鎌倉期の聖徳太子伝記資料に逸文を見る「扶桑設利羅集」

との関係が、又考慮されねばならないのである。「扶桑設利羅集」の逸文は、管見の限り、次の如し。

『四天王寺古今目録抄』の引用文によれば、

a 「一舍利事／扶桑舍利集云法隆寺佛舍利一粒白色如小□<sup>〔角〕</sup>」豆許<sup>〔性〕</sup>・納銀壺<sup>〔性〕</sup>・舍利安上宮王院寶藏<sup>〔性〕</sup>・太子／自胎内奉<sup>〔性〕</sup>掌<sup>〔性〕</sup>御誕生後尚以不開二歳之時／春向東方<sup>〔性〕</sup>・稱南无佛<sup>〔性〕</sup>之時自掌中<sup>〔性〕</sup>・右<sup>〔性〕</sup>・給也<sup>〔性〕</sup>」(尊經閣文庫藏本に依る。以下同じ。)

b 「日本記云設利羅集曰天王寺金扶堂佛舍利三粒白／色二粒黄色一粒云々」

c 「一御舍利事／……是、扶桑集ノ御舍利三粒白色二粒黄色／一粒トアル……」

a の引文は、若干の異同を伴いつつ『聖徳太子傳玉林鈔』(従つて『金玉抄』にも)にも存する(e)。「玉林抄」の引文は次の如し。

d 「裏書云扶桑舍利集云大野岳者今豊浦寺東佛門之處也今元興寺是也云々」(卷四吉川弘文館刊影印本に拠る。以下同じ。)

e 「扶桑設利羅集云法隆寺佛舍利一粒白色大如小角豆許<sup>〔性〕</sup>・銅壺<sup>〔性〕</sup>・佛舍利安<sup>〔性〕</sup>・上宮王院寶藏<sup>〔性〕</sup>・聖徳太子自胎内<sup>〔性〕</sup>・奉<sup>〔性〕</sup>掌<sup>〔性〕</sup>・御誕生之後尚以不開二歳之春向東方<sup>〔性〕</sup>・稱南无佛<sup>〔性〕</sup>之時自掌中<sup>〔性〕</sup>・所落給也東大寺<sup>〔性〕</sup>・西室<sup>〔性〕</sup>・住僧延喜上人<sup>〔性〕</sup>・説也云々」(卷二31ウ)

以上の他に徳島本願寺蔵『聖徳太子伝暦』等にも引文あるが省略。a から e までの引文で注目すべき点は、b の引文、「日本記云」を冠して引用されることである。この「日本記」は、おそらく、平安末・鎌倉初頃の成立と覚しいもので、「中古」の「日本記」を考慮臆測する上で貴重な一條であろう(牧野「事相書・口伝書にみる『日本記』・平基親のことなど」覚書)『実践国文学』33号昭63・3刊)。a から c の引文を収める『四天王寺古今目録鈔』は、別称を「提波羅惹秘決」とも云い、正應四年釈了敏写の一本を前田育徳会尊経閣文庫が蔵し、本奥に「嘉祿三年<sup>〔二二七〕</sup>」「天王寺東僧房」にて「書之」とあり、嘉祿三年以前の成立は確実である。即ち嘉祿三年以前に「扶桑設利羅(舍利)集」「設利羅集」は四天王寺あるいは南都に流布していたのである(『四天王寺古今目録抄』は、同じく親通撰の「巡礼〔私〕記」をも引く)。

果して「扶桑設利羅集」は、いかなる書か。三国にわたる「一切設利羅集」のうちから「日域」の記事のみを抄したものか、あるいは、「一切設利羅集」の影響下に著わされた全くの別書か。今後の課題である。

ところで、山岸文庫に該本の臨写本一本が存し、他に臨写本一本を家蔵するが、いずれも近代（昭和）の臨写にすぎない。誠に天下の孤本と称して誤らないものである。しかも、料紙・字様等から見て鎌倉初期頃と覚しい写本であり、撰述時に近い頃の書写として扱べき最善のテキストでもある。内題下方の本文同筆の「大江親通撰集」も、かなり信憑性の高いことが知られる。本文庫貴重本中の尤物の一つに数えるべきであろう。

既に一部の識者の知るところであったが、本格的な紹介は、管見の限り未だ見ない。ここに影印に附して全貌を公刊する次第である。以て、本邦の舍利信仰の盛時（鎌倉期の広汎な信仰へ到る魁としての）をうかがうに足る資料として、又、新たな平安後期の儒者の数少ない撰述書の一つとして、評価・活用されることが今後に望まれる（「節略」・「取意」などが、当代の学問の有力な領域を占めていたことは既述。異伝発生の淵源の一つであったことにもふれた。本零本一帖のもろもろの問題は翻印と併せて『実践国文学』35号に記す予定。参照下されば幸甚）。

書誌は次の如し。

「一切設利羅集」<sup>〔十之〕</sup>存卷〔四〕 題大江親通撰

大一帖

朽葉色包背表紙（二四・四×一四・一糎）、中央打付に「一切設利羅集卷<sup>〔第〕</sup>四 現在利益部」〔 〕の二分分は、第一字の第の半ばと第二字分の高さ約一・一糎が削り擦消される）と墨書、その下に同筆にて小題を「衆病削除 現世安穩／所求圓滿 珍寶出生／變如意珠 化作五穀／惡世利益 罪障消滅」と墨書。右下隅に「辰」と別筆墨書。その上に「荒」と朱書あり、表紙左端に「押へ竹」の名残と思われる細い竹棒を包むが、平安後末期から鎌倉時代前期頃に見かける装訂

である。見返しより内題、目録と続き、二丁表六行目より本文。但し、見返しより三丁裏迄の書風は、四丁表以降のものとやゝ異なるように思われる。単辺(二二・〇×一・六糎)有界七行(界幅約一・六糎)の押界を施し、行十九字内外、裴紙系の交漉紙か、粘葉装、両面書。墨の訓み仮名・送り仮名(本文とはゞ同時期、同筆か)、朱の。。を以て毎篇題、。を以て毎小題の頭に標する。朱の断句・ヲト点を施す部分もある。朱墨両様の見せ消チ、左右に校字傍記。終丁表の本文末を一行残し、その裏一行目に尾題「一切設利羅集卷第□四」と墨書。印記は巻首に「智/城」(双杵朱文印1.×6糎)。

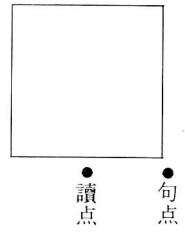
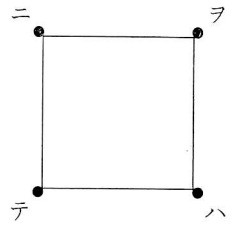
後代の貼紙墨書(おそらくは、田中教忠氏の手)は、左の如し。

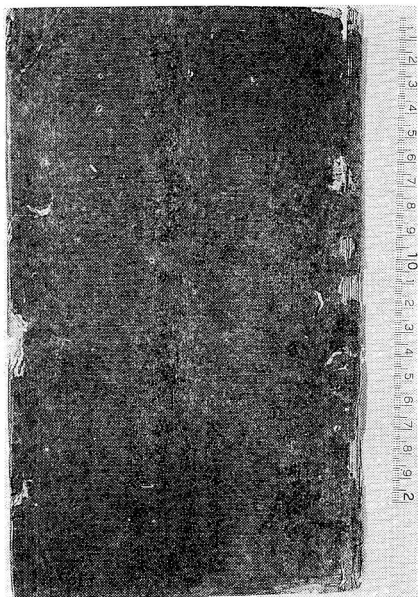
四十丁裏、本文「類聚國史卷第七十云」に係り、「類聚國史卷第七十 今世缺失不傳天長四年五月辛己 丙戌/兩條日本記畧載之是以日本後紀文類聚國史卷第七十所載可/證知矣」と。傾聴に値する見解であろう。

他に後見返しに、貼紙あり、明治十七年二月廿三日の田中教忠氏の手に係る引書目(従って、私に作成した引書目は、敢えて掲げない)並びに「元亨積書」の引文等があるが、影印に譲る。又、途中「尊鈔上」と裏書した「天魔」の注記一紙を挟む。

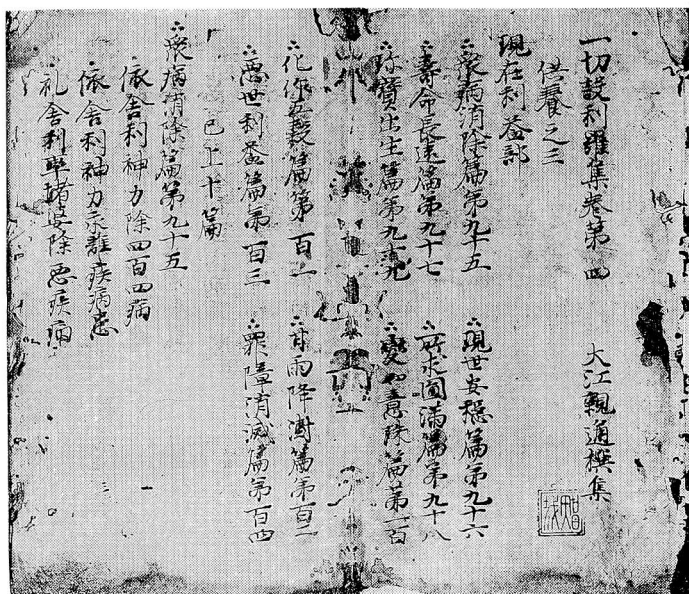
本零本一帖は、影印に見る如く篇題の擦消、小題の擦消重書、貼紙墨書による訂正、目録への小題の小字補入など、一見すると草稿段階の様相を呈するが、大江親通の手に係るものとは現時点では考え難く、おそらく、鎌倉初頃の書写、あるいは、平安末期に遡るものか、と思われる。こうした訂正箇所のみを考慮するならば、後見返し貼紙識語の如く「作者在世之時手書者乎」との見解の生ずる点もあり、強に否定しきれないところも残るのであり、巻次の「□四」の一字分割り擦消したことの意味と併せて今後の究尋すべき課題である。

なお、ヲト点の施された箇所から帰納できる点図は次の通りである。





表表紙



收牛舉堵即能除疾病  
 駿凡舉堵即能除疾病  
 患自拜舍利速得雙眼明  
 患鼻拜舍利速得用香氣  
 患耳拜舍利速得兩耳聞  
 患癩拜舍利言詞即如流  
 患癩拜舍利奪走得自在  
 患冷拜舍利禱亦先除愈  
 花拜舍利者重患即除愈  
 石篇內雜部  
 灰灰舉堵即能除病疾  
 佛目位帶塔能除病患  
 依舍利神力除四百病  
 悲華經云願我來世入涅槃後病病即時定舍利珠

出諸妙藥如雨而下遍滿世界一切眾生歡喜於  
 四百四病皆悉除愈四大調和疾病皆息生歡喜於  
 十善道於三乘中各得不退轉若不念者不成正  
 覺 五百願內第百廿八云  
 依舍利神力永離疾病患  
 悲華經云願我來世入涅槃後諸花雲作珠寶下作  
 寶珠時一切眾生無諸病苦永離疾病與病之毒  
 十一善道於三乘中滿不退轉若不念者不成正  
 覺 五百願內第百廿八云  
 觀世音菩薩白佛言未來世中若有善男子善  
 女人作十一面觀音像於佛舍利處安置供養從  
 白月十五日於舍利塔中安置供養恭敬者遠離  
 一切惡夢不祥得吉祥榮耀一切疾病皆除除愈  
 一而障難皆悉除滅 善提場云此觀世音經云



若於舍利塔中里月十四日一夜不食藥除淨  
 身著淨衣於就銅器中滿盛白芥子誦陀羅尼  
 加持一千遍至力若有人患諸鬼魅取白芥子和沙  
 燒燒重病之人一病鬼皆得解脫略抄  
 禮舍利塔淨塔除淨惡病  
 阿毗達磨大毗婆沙論第一百云 音怛叉 羅國  
 有一女人在月夜王捨于頭禮元惡王所赴  
 靈廟風有榜囊在佛座前尋作惡思此處淨  
 知何拘盡穢汗其中以手捧除香經塗飾善  
 莫力校舍此女是迦維室香如須極樹口中守  
 出青蓮華香正西域第三云 咀叉始羅國  
 有摩竭婆娑曼王正也或至春日特放光明神花  
 天樂頗有兒闍諸虫皆曰近有婦人身嬰惡  
 癘纏至室都婆巫奇躬孔識見其庭宇有

4

諸藥穢樹除淨陰香散花取青蓮花重布  
 其地惡疾除愈故自增妍身出名香青蓮  
 同護斯地也  
 較半寧塔婆即能除疾病  
 西域表一云 健駃邏國牧牛小寧塔牧上迦賦  
 色至王更越沙五層傘銅相輪即知未舍利一  
 解盡其法式依供養以有嬰疾病效祈康愈者  
 健駃邏國王歲時命多蒙慶者 此國西域  
 表南八九里有甲鉢羅樹高百餘人投葉投疏  
 其下有過去四佛坐賢劫之中九百九十六佛皆  
 當坐焉冥敬發衛靈鑿階破釋迦如乘於此樹  
 下南面而坐吾阿難曰我去世後當四百年有王  
 号迦賦色也此南不達越率塔波善身所有骨肉多  
 集此中甲鉢羅樹下有平都波地賦色也王之所達

5

也如未涅槃之後第四百年也。賦色如王粟花。齊運統時。部剛不信。罪福輕微。佛謀由悲。草澤遇。此白卷玉。說本逐。至此忽。隨身有牧羊。以豎於林間。作梵亭。都護其高。三人玉曰。汝何所為。救豎對曰。昔釋迦佛。聖釋懸。此當有國王於此。膝地。建亭。增波。疊彩。舍利。多衆。其內太子。聖德。指道。名為持音。託神。功。勝。彌。光。屬。斯。辰。故。我。余。者。先。相。擊。鼓。說。此。語。已。忽。於。前。現。玉。剛。是。說。自。願。其。若。大。理。光。託。因。茲。心。信。深。致。佛。法。周。微。少。寧。堵。波。更。速。石。寧。堵。波。欲。以。功。力。稱。復。其。土。隨。其。數。量。恒。出。三。尺。右。是。增。高。路。四。百。尺。基。出。於。峙。周。一。里。半。層。基。五。級。高。一。百。五。十。尺。方。乃。得。覆。少。寧。堵。波。王。用。善。慶。復。於。其。土。更。起。如。五。層。金。銅。相。輪。即。以。如。未。舍。利。一。斛。置。其。中。式。於。供。養。曾。達。羅。訖。身。小。寧。堵。波。在大。基。南。隅。

下。停。出。其。半。玉。心。不。平。便。即。擲。棄。遂。住。寧。堵。波。第。二。級。下。石。基。中。半。現。復。於。本。處。更。出。少。寧。堵。波。王。乃。退。帝。望。老。日。夫。人。事。易。迷。神。功。難。掩。靈。聖。所。扶。憐。怒。何。及。懺。懼。既。已。謝。各。令。贖。其。二。寧。堵。波。今。獨。說。在。幾。仇。寧。都。婆。即。能。除。深。疾。  
 西。城。弟。五。六。禍。若。鞠。團。國。大。誠。東。南。有。如。未。段。仇。少。寧。堵。波。人。有。深。疾。至。誠。說。繞。必。得。痊。蒙。其。福。利。  
 在。昔。如。來。於。此。六。月。說。身。無。常。不。淨。其。側。有。過。去。四。佛。並。及。經。行。之。眾。同。託。第。九。云。摩。揭。池。國。觀。自。在。菩。薩。精。舍。南。有。如。來。三。月。之。闍。剎。剪。髮。仇。嬰。疾。病。者。旋。繞。多。愈。文。  
 同。託。第。九。云。摩。揭。池。國。觀。自。在。菩。薩。精。舍。南。有。如。來。三。月。之。闍。剎。剪。髮。仇。嬰。疾。病。者。旋。繞。多。愈。文。

惠目拜舍利速得雙眼明

續高僧傳第九 釋智榮傳

仁壽末年勅置塔於涇州德壽寺送舍利初傳鎮  
宇夜放黃光遍滿一室千人同見後放五色食頃  
方滅自余歲者數變不可殫言及至塔宇夜列放  
光乃照一寺古畫並列有趙威德者惠目讚其蒙  
照畢膝下塔曰不放光明塔真靈堂五色明燭致如  
賢聖仙人鳳林寺象塔于內數千方士皆感瑞雲  
三寶咸通錄云 貞觀五年戊州刺史張高開鳳  
泉寺之塔請出舍利以亦人有勅許之遂用發深一  
丈餘獲二石碑並周魏之所樹也右舍利時並數道  
俗一特同殿有一僧又忽怒眼直視忽然明淨京邑  
內外踊騰同起七聚塔所  
續高僧傳第七 釋法遠傳 仁壽四年勅於博州建塔初

送舍利婦人李氏惠目廿余年乃來札舍利兩目昏  
冥 釋智榮傳 仁壽九年勅送舍利下

華州天雨異花又放紫光變為五色昏者來賊忽  
獲雙目捨杖而歸風壁寺痛其倒皆余

惠耳拜舍利速得兩耳明  
同傳第六 釋智榮傳 仁壽中建塔勅送舍利於吳州見  
觀寺沙門僧并惠耳四月開聲如磬一觀舍利兩耳

洞開 釋智榮傳

惠鼻拜舍利速得開香氣

續高僧傳第六 釋智遠傳 仁壽中勅送舍利於恒州

龍藏寺有民金玄贖者住在寺側患鼻塞廿年莫  
知香爇當于此日忽開香氣驚尋至寺因愈老

惠癩拜舍利速言詞如流  
續高僧傳第六 釋智觀傳 仁壽中置塔送舍利若

州定林寺州會巨海者患癩六年開舍利至自書請  
瑞見一粒舍利分為三氣色如黃金下沉牢拳又見  
三佛從空而降能陳述詞句如流

惠靈拜舍利舍利自得自在

續高僧傳卷十

釋惠靈傳隋文帝仁壽中

年又送舍利于蘇州十谷寺有人靈覺及痲疾者積數十年開

舍利初到舉未禮懺忽得差損輕健而歸

續高僧傳卷六

釋僧範傳隋文帝建塔送舍利于

吳州覺觀寺州民殺法會不足變故十有餘年委杖

自投禮舍利忽得除愈放杖而歸

同傳弟共

釋通者

隋文帝勅塔送舍利于德朝會通

寺至州治之日故赤光明如大堯許久而方感有一

婦人躄疾多歲聞舍利至來塔函苦心發願乞蒙快

依言立愈疾之而歸

又焉

惠公拜舍利顯奇光除愈

周僧去釋智授奕州人也仁壽之歲放塔回窻有勅賜

智授送舍利於魏州用覺寺初扁治所故大光明紫

白洞文五色遊教有屋智聰於度積年因發願禮教

乃起赤光病忽除愈

續高僧傳卷十七

蘇州折益量壽寺魏塔舍利初在

道場大衆禮拜重患者便得除

隋內雜部

度皮牽堵婆即能除疾病

因德舍利塔能除諸病患

度皮牽堵婆即能除疾病

因德舍利塔能除諸病患

度皮牽堵婆即能除疾病

因德舍利塔能除諸病患

西域第六云 蘇摩國臣物履陀林有摩堵波高卅  
 餘尺昔如來寤賦舍利已諸婆羅門無得獲於陀  
 疊般那唐言與燒傷地以餘灰炭持至本國達此軍營  
 而後供養因在已淨奇迹相仍疾病之人祈請多愈  
 菩薩投身飢屎越塔母緣經云  
 乳陀越國毗沙門波羅大城於北山東面下赴立大塔  
 為菩薩投身鐵屎塔今持諸國中有人癩病及癩  
 傳禁言于野驛賊及瘰癧病患來就此塔香燈燃  
 薰塗泥地修治掃灑并叩頭懺悔百病皆愈  
世安總篇第九十六  
 舍利威神唐言與燒傷力能除刀兵定  
 舍利前誦咒離一切障難  
 廣戴舍利者賊除諸史障  
 舍利塔神驗滿世間吉慶

宅內安舍利消除諸患難  
 文殊師利寶藏陀羅尼經云 若善男子善女人身  
 有災厄當於宅內安置舍利塔并佛散像畫文  
 珠師利童子像燒種香沉香白膠等香燃燈  
 散花上妙菓疏百味飯食每日供養依法修行繞  
 塔行道所有諸患及舍宅厄患當除滅  
 舍利神變力能除刀兵定  
 悲華經云 願我來世入涅槃後今時國主刀兵定起  
 特依舍利珠安穩豐樂刀兵劫定自然轉成眾生惡  
 心任運心息皆生慈心如父母兄弟牙骨惡儀並一  
 念宮於十善道住三乘法若不念者不成心覺  
 舍利前誦咒離一切障難  
 一字奇特佛頂經云  
 令自身息定於有舍利塔安奉尊像香花等供養取

新乾威滿香水并一切藥及諸寶等加持一百八遍  
 以不截絲繫瓶項灌沐自身難一切罪一切障難  
 大佛頂萬行首楞嚴經第七云 復次有法若於塔中或  
 淨室內取其淨土和合種種用作三級方壇隨其  
 大小種種草華布散壇上取一踏踏離威滿最翻  
 復心舍利七粒置其瓶內即以此瓶安置壇上  
 作法之人於其壇面數淨草座志心誦呪燒香散  
 華誦持咒咒不經七遍奉持舍利即放光明照其  
 行者誦咒之人發願頂禮取此靈翻身自服之一  
 切障難悉皆除滅  
 頂戴佛舍利除障諸咒障  
 大佛頂萬行首楞嚴經第七云 又取舍利作囊威  
 之以用頂戴一切諸佛菩薩天龍鬼神恒不遠離圍  
 繞守護視之如佛一切衆生身者歡喜恭敬供養

阿難此法不可思議功德福德力我今為汝宣說  
 勿遺忘能令衆生無諸灾障果報圓滿  
 續淨法行經云 中法行奉事於佛舍利敬懷經卷持  
 誦誦讚倚謂自第一至五二十者恒令佛居嚴側整  
 願必有神察人見肅然不敢輕慢心歡意樂彼此  
 得禮所以者何佛舍利慈像經經讚禮三寶莊嚴等  
 故之得福憐之得辨覺辨四天子降再是於六宿諸  
 鬼神主鹿鹿善神動登奉總殊亦如衆神因鬼神  
 見大尊天威神往各走去无近怒拿諸天大神見有  
 破養積進用心奉此法行二十者大歡喜慈奉擁  
 護隨倚左右求願与願不違終難定大疾痼惡官  
 盜賊怨家債主口舌險謀皆悉銷滅而種種成不  
 被災傷財物安穩大富昌熾室家知合歡心相向  
 子孫興威士官得位速得高遠无所里号至百事

吉祥樂林... 舍利塔神驗滿世問吉慶... 一切如來心最密金身舍利靈寶能羅尼經... 持博伽  
 梵吉金剛手此大舍身舍利積聚如來寶塔一切  
 如春舞童俱脂心施羅尼密作慈率來在其法空  
 剛手普病強要在是密故塔即變為雲豐寶飾如  
 胡曆受懼服百手胎來遊身密知亦豈知對麻集百手  
 俱胎如未舍身舍利之聚乃至八方四法法遠亦  
 殊真中九千九百千方俱胎如未頂烟亦在其中  
 由是妙童兒之塔所在之處有大神驗殊勝威德  
 能備一切世間吉慶  
 壽命長壽篇第九十七  
 對舍利誦咒壽命日增長  
 舍利除諸惡壽命日增長

16

舍利除惡賊壽命得增長  
 舍利除亂體壽命得增長  
 對舍利誦咒壽命日增長  
 夫俱知佛世所說准提陀羅尼經云  
 有舍利塔優前念誦隨力以香花供養乞食以是身  
 命從月百至百五日誦陀羅尼滿卅万遍取其滿  
 則一百日夜不食倍如供養空後復即見金剛手  
 菩薩持行人性自空中為行者則示阿耨羅婆門  
 入巖中得天妙音壽壽日增長  
 舍利除諸惡壽命日增長  
 悉華經云 願我來世入涅槃後從舍利珠雨跡蹻蹻  
 一切諸惡悉皆清滅眾生壽命日增長一切世東  
 從十善道控三条地得不退轉若不念者不成正覺  
 五百願內第四  
 百廿一六

17





隨法供舍利得伏諸鬼神  
 供舍利現前得無量功德  
 舍利塔塗香念誦得昇天  
 造舍利念誦文殊現說法  
 舍利前誦咒證無上菩提  
 舍利前誦咒登菩薩位地

篇內雜部

專心欲起塔舍利果遂

對舍利咒芥子顯發得勝

舍利前念誦祇求成成就

聖迦泥念慈金剛童子念誦儀軌云 此金剛童子真  
 言對舍利塔前念誦餘處不應念誦作法不成在  
 帝念誦不聞新者一切祇求皆得成就

陀羅尼集經第八云 此咒法古於舍利塔前種

香花供養畢已惟日月熾特誦此致打羅尼阿致  
 咒乃至日月還放光如故然後方休其法即成一  
 切祇求誦之皆得稱果願不踰伽舍剛頂誦云  
 真言行者故勤修十千千眼觀首在菩薩供養  
 者當於清淨伽藍中舍利塔前備一壇場札四方四  
 佛入四無量心定中持菩薩流出天光明遍照一  
 切世界受若眾法遍光顯觸皆得解脫持菩薩申  
 升爭摩頂隨喜言善哉以千眼觀見與白衣觀  
 音夫白衣觀音多難觀音毗楞照觀音心上顯四大  
 菩薩同以灌灌行若一切菩薩獲得圓滿

十一面觀世音經云 真言行者於一道場中全身  
 舍利塔東面安坐一面觀音像面向西持其前  
 轉讀摩訶般若波羅蜜積集福德聚迴向無上  
 菩提隨意經行不祥業障皆得清淨一切善願成

就圓滿云藥師琉璃光七佛本願功德經卷七云 戒律

特會中有多天衆智惠辨少作如是念云何適足  
恒阿沙世界現在如來暫聞名者便獲無邊深妙  
功德特擡起牟尼如來即入警呂一切如來甚深妙  
定纒入定已天午衆六種震動雨天香花散七如來  
各度其國未至索訂世界與又迦如來共相慰向  
特佛世尊由其光世本願力故各自自坐師子寶座

上隨慶安座七如來以一音聲即說咒曰 余時

執金剛菩薩摩訶薩曰天說此咒目時執金剛菩薩  
羨七佛加護即說咒曰 說咒已曰若欲見我聞  
善德者應當書寫此經造七佛像并執金剛菩薩  
像皆於像身安佛舍利於其像前種一依卷受八  
戒唐三特澡浴著新淨衣從白月八日至十五日  
每日誦咒一百八遍我於夢中即自現身共為言

說隨所求者皆令滿足云十一面神咒心經云

復次行者或於白月第十五日以十一面觀自在  
菩薩像置有佛或都制多中著新淨衣受持  
奇哉經一日一夜不飲不食取糝末那華二十  
八枚每取一福咒之一遍擲置像上乃至香盡  
余時其像當前一面口中出聲猶如雷吼由此便  
令大地震動行者念時應自察勿生恐怖但念  
神咒咒云祈願作如是言說既觀自在菩薩摩  
訶薩大悲者我持持特能與一切有情作大依怙  
能滿一切有情心之祈願特觀自在便與其願常  
興願時諸天龍等並有能興作郭慶者

隨羅尼集經第八金剛阿羅里多軍荼利菩薩自在神  
力咒咒品云 此咒法云於舍利塔前種一香危供養  
畢已復日月蝕時誦此護街羅尼訶空咒乃至

日月逐放光如故然後方休其法即成一切所求  
 誦之皆得稱果一願  
 廣大寶樓閣秘密善住陀羅尼經卷上云  
 余特世尊復說隨心咒曰咒略之根本咒者不假簡擇  
 吉祥星宿日曆及但誦滿一万遍已然後佛前或  
 香科塔前於白真中五日潔淨洗浴著鮮淨衣服  
 力供養燃四盞燈嚴諸香華樂持咒者食三百  
 食便誦此咒八百遍即於雷慶宿天欲曉時如來乃  
 現其身執金剛杵菩薩亦現於前所有願者皆得圓  
 滿若造五逆罪者作如是法第三遍方得感現勿  
 生常於清旦誦八百遍祈求上願皆得成就  
 根本說一切有部毗奈耶雜事第三十九 持波叱雜  
 邑無憂王使闍七塔取其舍利於瞻部州廣興蓋  
 塔八萬四千周遍供養由塔威德庇嚴世間天龍

藥叉諸天神等咸皆恭敬尊重供養能令正法光  
 顯不滅有所願求無不遂意  
 舍利前誦咒得成大邑主  
 善提塲所誦一字頂輪王經第五云 又於山頂作緣  
 生法身塔或作舍利塔於舍利塔前取百千蓮花  
 各二花誦一遍十獻塔得摩訶滿拏里王若不  
 成就得大邑主或得卿堂主  
 舍利羅經總會得寶錢  
 總羅尼集經第十功德天法寶 若在寺中若是在房中  
 存舍利摩鹿野道場以功德天像面向南者寸截  
 紫薑末粒裝木瓶此法是二種物志以驗驗密法  
 一取本咒之一遍擲着火中如是滿一百八段乃至  
 一百三特如是二十一自行者日得銀錢五百文  
 隨法供舍利得伏諸鬼神

七俱胝佛母准提大明陀羅尼經云 若欲除降伏諸大  
 鬼身即心欲取舍利骨七粒於白福臨院中藏著取  
 醜翻半鉢亦盛著院中於酉月十五日辰香裏  
 藉交華堵臺佛前沃一盃肘方男奉羅障世院  
 齋中取好花細養四香爐燒安悉奉獻念  
 經其院淨舍利寶蓋光武生靈舍利特行者持香  
 爐發願禮拜即出取舍利盡飲醜翻取且舍利盛  
 不食  
 一願願中似五色絲囊威之類戴即並量俱服  
 佛常速行者諸鬼神等自然降伏作法時一旦夜  
 供舍利現前得無量功德  
 不妄羅索神靈真言經第廿四云 余特執金剛密寄  
 主菩薩復白佛言世尊何者名得最上成就云何  
 得諸民就余特如來共菩薩言若有菩薩

族姓男婦姓女有必宿植直菩提心善根種子如  
 芥子者彼人則得最勝成就如是真實菩提心人  
 隨其力年當作金剛舍利制多於別家平安佛舍  
 利極精進日一香以種一香承如法灌階舍利制多  
 最於壇內并置其經常以種一花香供養受持讀  
 誦聽聞瞻禮舍利寶蓋則得最上成就之法前作  
 諸善盡皆成并到斷人兩受持供養舍利塔即  
 現前獲得無量功德  
 舍利塔金香念誦得年中  
 舍利塔起勝三束經文殊五字真言勝相云 以香泥塗  
 舍利塔梵寫五字真言旋念誦五字遍文殊喜  
 薩現其人前而為說法當得宿命智并才一切如  
 來諸菩薩等及執金剛恒劫聖眾常加持護念  
 速滿諸願疾證菩提

遼舍利念誦文殊觀說法

舍利念誦文殊觀說法 於舍利塔四面周

繞右轉書五字地羅尼遼塔行道念誦勿令斷絕

滿五帝又遍念特知未及文殊師利執金剛等共

虛空中而現其身乃為後法

舍利前誦咒證無上菩提

佛說七俱伽母摩提大明陀羅尼念誦法門 全明智三歲譯

唯提菩薩是七俱伽佛母也此菩薩像身色黃白也

有十八解面有三目其像周圍安明光焰若人悉

敬供養者永離三途速出生死 若人不得七俱伽

佛母取像打舍利前心念菩薩口讀誦大般若若

法苑經等諸大乘經大乘經論思惟誦說者現世

所求皆得果遂於無上菩提得不退轉

舍利前誦咒證菩薩位地

持世陀羅尼別行功誦法云

欲成就大法後正月一

日當用月初日起首作法至十五日淨持八戒然

後折食於舍利塔安置像之面向西光師面向

像於像前設檀香供養日即誦金剛般若等

經夜半即誦咒每欲誦咒特結跏趺坐至心誦

咒作廣大願滿七日已即得如前滿古寶取用

之無盡得此寶物已用造寺舍浮屠為塔廟種

莊嚴乃至依前誦咒作法勿違其咒神即現身

勸死者或有不退轉菩薩位地 咒上

阿剌多羅陀羅尼何魯力經云 欲得見觀自在菩

薩者於舍利塔中誦咒五万遍然作大供養燃

牛糞燈坐三稜草一夜誦真言乃至中夜起時

即現其身行人見已即從座起供養恭敬余時

喜慶即為說法得開法已此人常不離聖者得

不退菩薩地乃至成佛

信願內雜部

專心欲建塔舍利令果遂

對舍利元芥子開戰得勝

專心欲建塔舍利令果遂

灌頂經第一云 釋迦童子白佛言供養舍利流

布散開淨投廣作佛事善哉世尊佛之舍利威神

乃余我等今日快得供養及未來世諸眾生等皆

亦復然廣設供養以為軌則此舍利者誰知麻米

各有威神我滅後若有人至心思念欲建塔寺

專心一意思念舍利舍利為威便得建塔以為供

養遂其本心不違本願 同上 同經第六云 佛語

阿難我今於此大衆之中廣說舍利福德因緣此

舍利者雖如麻米各有威神我滅後若若有善

男子喜女人等至心思念欲建塔寺專心一意思  
念舍利舍利為威便得建塔以為供養遂其本心  
不違本願

對舍利元芥子開戰得勝

善提場疾嚴陀羅尼經云 若於舍利塔中黑月十

四日一日一夜不食漂浴清淨於銅器中滿感白

芥子誦陀羅尼加持一千遍勤若開戰特顯威

嚴軍即被禁以自軍得勝 佛舍利

殊寶出生篇第九 外篇

從佛舍利中而衣眼具

情世送舍利即變成黃金

從佛舍利中而金銀琉璃

大業悲心施利經立願舍利神變品云 我般德勝

後其有衆生以衆寶物供養舍利乃至一瓣南  
 元佛一札一錠一合掌一華供養者令彼一切隨  
 於三乘得不退轉劫正法滅盡法燈永滅法性倒  
 已令我舍利乃至入地金輪上住隨其業時沙  
 世界窮乏路寶踐踏鴉跡如大色名勝意上  
 至阿迦尼光際兩獲一華乃彼諸華中出種注  
 聲色發二天門如是聲文自識念先造善根令彼  
 捐一切菩薩摩訶薩不獲從天來下為婆訶世  
 界一切人說十善業令住其中令彼諸華折虛  
 空中變成金銀磨屋真珠琉璃車乘馬船及翻  
 翔屏魄陵魄令雨如是等寶除滅飢饉疾病憂  
 他軍馬惡風雜毒一切除盡令安穩康健諸  
 闍諱言欲繫用安訶佛立一切豐樂其有衆生  
 身寶觸寶隨作供具者令彼一切折三奪法得

不退轉至文兵疾飢乏吏劫特彼舍利復更變  
 成餅玉磨屋上至阿迦尼光際雨種華令彼  
 華者種妙聲如前取說永意悲華經云  
 願我來世成正覺正法既滅不開佛法今特變  
 世界衆生轉惡薄福無始空無亦資我之舍利  
 變為異相琉璃寶珠出觀世間利益衆生若不  
 念者不成正覺五若應如四百五又願我來世入  
 涅槃後從舍利珠兩諸花於虛空中變為化作殊  
 寶金銀磨屋真珠琉璃珂明璧玉真寶瑪寶馬  
 船翻翔大種寶錫如雨而下遍榮婆世界利益  
 衆生若不念者不成正覺同前內第四百八  
 又願我來世入涅槃後飢饉却特從舍利珠諸  
 除寶如雨而下滿空使世界廣作佛事利益衆  
 生若不念者不成正覺同前內第四百五

徒佛舍利中雨衣眼臥具

又云願我來世入涅槃後痲病楚特從舍利珠出

諸珍寶如雨而下謂金銀等希有妙寶衣服臥具

天冠璽路衆生資具遍滿娑婆元吐受用廣大

利益若不念者不成正覺同願內第百廿七

僧世所送舍利變成黃金

續高僧傳卷第六佛信世信釋僧世青州人願

秦陶道無擇陰乃才跨高顯名聞齊晉周皇

入京住興善寺長遊諸會必存論次仁壽下勅

送舍利于萊州之弘藏寺四年又勅送密州

茂縣寺行達青州傳道藏寺夜放赤光從房

而出直指東南余夜密州城內又見光明從西

北來相如火炬兼焰非一途城內外朗徹既至

滿所夜放光如前遠城朗徹身異僧也奉祝祭

大衆忽空不久後至守塔復故大光造上監音字

行初曰打刹教化舍利二粒是于瓶內及遺石

函忽變為舍利如素如豆同類函處舍利變為

青琉璃母貝圖表同

變如意珠篇第一百

入過惡佛舍利變成如意珠

大論第五卷有大言寶珠從龍王腸中出人

得此珠者不能容入火不能燒有如是等功德有

大言是帝釋所執金剛用與阿耨羅刹特辟落

闍浮提有人言諸過去久遠佛舍利法既滅盡舍

利變成此珠以奉衆生有人言衆生福德因緣故

自然有此珠群如罪因緣故地獄中自然有罪

之器此寶名如意珠無有定色清徹輕妙四天下

物皆志照上大論去闍曰諸佛寶志何處出



卷曰金出山石紗赤厨中真珠出真腹中竹中地  
 胞中龍珠出龍腸中珊瑚出海中石樹玉見空  
 甲銀出燒石餘陷隨頭藥等皆出山窟中如  
 意珠出自佛舍利若法沒盡持諸舍利皆  
 變為如意珠辟如過千歲水化為頗梨珠  
 如是等諸寶是人中常佛所法嚴一切國主  
 是說珠珠諸天所不能得也 金剛般若經云

釋金剛二字云往昔諸佛舍利變為金剛如意珠  
 今通賢利力辭舊法辭賢用利辭賢眾或不便用  
 利能摧万物故云金剛

無量壽經優婆塞舍願生得云 德發無頭吾履造并經卷下  
 者佛入涅槃時以方便力留碎舍利以祕眾主  
 福蓋此舍利變為摩尼如意寶珠此珠多在太  
 海中大龍王以為首飾若轉輪聖王出世以慈

悲方便能得此珠指觸摩提保大疏卷若須衣  
 緣飲食燈明樂具隨意所發而種之 物特玉便  
 潔膚甚珠長竿頭藥願言若我實是轉輪  
 者願寶珠示如此種之 物若逾一里若千里  
 若百更隨我心願余時即便於虛空中而種  
 之 物皆拂所須隨是天下一切人願以此寶  
 珠力故云 金剛般若經云 問如意珠從何

出生釋云法藏已佛舍利從地至金剛際變  
 為彌騰寶珠其明突威遠金剛際出於世間  
 去至阿伽尼陀天而流散法乃至化衆生盡  
 十善中又而七寶衆生若身若觸若用皆怪  
 云乘彼作利益已遂沒於本任慶云 大論云此  
 珠是佛舍利劫末之時變成如意珠利益衆生  
 不但能至如意珠是金翅鳥骨其骨珠惟有死

明及兩寶隨能至業有出沒

觀音四十千要次義云 輝如意珠半云如意珠者  
兩寶之義譬如轉輪聖王以王威德与摩尼力  
所莊兩財託其輪王德故大者徑一尺六寸故  
次尤明畫夜照十六百聖其珠首有圓光以五  
色像如燈燒之若故兩寶安寶柱首作禮請  
花樹有五色金剛如意珠隨色用異語赤

能除一切惡物魔緣綠色能除一切惡病黃色

能除一切惡病等怖紫色能除煩惱斜色能除一切

壽奉慈拔今為富饒財寶与紺色珠

珠顏色是為福貴也元指一行金注

孔雀法注云 青色金剛珠能除一切障綠色金剛

珠除一切毒赤色金剛珠得出火碧色金剛珠

求皆得黃色金剛珠昇空身軀自在紫色金剛

珠應為金銀玉鑽白色金剛珠能澄淨水

化保五教篇第一百

過去佛舍利即變成五觀

金剛般若經論計大論云 性百諸佛舍利變為金剛

如意珠科益氣云 又觀音四十千要次義釋如

意珠半世間有五色金剛如意珠隨色用異又

有金剛珠謂白色能除災難青色金剛珠能成

五穀等 之於物上生佳成舍利者備數也 又云此珠家少者

如芥子許而有大力又云是天虫膝寶雨一切寶蓋

非內畜之非外入而自然滿云

曾兩降澍篇第百二

龍依護舍利恐得澍甘雨

龍刹浸舍利旱魃得甘雨

卓魁供舍利忽得降甘雨

龍依護舍判德得樹拜而  
 正法念慶經第十八云 七頭龍王偈面龍王波修龍  
 王得叉迦龍王跋池羅龍王親言賢 屬龍多龍王親言弄  
 摩修梯龍王雲舞龍王阿跋多龍王一切道龍王摩  
 婆高龍王親言 如是等福德諸龍信佛法僧隨順  
 法行讚佛舍判此勢沙苦受第一學於四天下降  
 樹拜而心拔

龍湖授舍判享魁得拜而  
 表願集卷第五云顯等妙門釋國照撰  
 賀玉女潭祈雨表一首 并卷  
 沙同惠起言伏奉前月廿六日中使李獻誠奉宣  
 口勅令惠起往益屋縣玉女潭修香火祈雨惠  
 起行國精修謀揚 天旨以此靈應未昧禱祈初  
 連煙塲路聲下孔及授舍判雨足如絲分草

樹梢花信宿石沁原流際澤深枯酒慶于文 洽人神伏  
 惟 陛下聖德動 天夫澤光降 雲霧惠起出敬物精  
 誠感通無任善慶拜躍之至謹因中使李獻誠  
 入奏奉表陳賀以開沙門惠起誠敬謹言  
 大曆九年二月五日內道  
 顯聚國史卷第七十六云 天長四年五月辛巳 顯  
 巴道使黃內七道諸國奉幣祈雨屋百僧於大  
 極殿轉讀大般若經三箇百 丙戌命少僧都世  
 海請佛舍判肉糞禮拜灌浴竟後天陰雨降數  
 刻石止濕地三寸是則舍利靈驗之所感應也口傳  
 請教玉護國  
 舍判而眾寶判惡世眾生

樹增花信宿而此原流澄淨深枯涸慶洽人神伏  
惟陛下聖德動天光降先降靈惠超出世物精  
誠感通無任喜慶杯躍之至謹因中使太子憲誠  
入奏奉表陳賀以聞沙門惠超誠惶誠恐謹言  
大曆九年二月五日由道場次門惠超上表

皇極經世卷之七十七

天長四年五月辛

已道侵靈內七道諸國奉幣祈雨屋百僧於大  
極殿轉讀大般若經三箇日 丙戌命少僧都空  
海請佛舍利肉裹禮拜灌浴竟後天陰雨降鼓  
烈而止濕地三寸是則舍利靈驗之所感應也  
請教王集國寺舍利云

惡世利益篇第一百三

舍利而眾寶利惡世眾生

依舍利處之地隨破成就  
舍利後惡世普靈利眾生  
舍利賢劫中調伏諸眾生  
舍利降甘露枝飢饉眾生  
篇內雜部

舍利化眾生更不留生死  
依舍利教化即發菩提心  
舍利而眾寶利惡世眾生

悲華經第七 今特婆娑世東施孫寶我之舍利  
變異相疏離寶珠其明矣感從金對降出於世間  
上至阿迦尼吒天雨種種華曼陀羅華摩訶曼  
陀羅華波利寶多華曼珠沙華摩訶曼珠沙  
華有淨光明太如車輪百葉千葉或百千葉其  
无過顯亦有好香微妙常數觀者无歎其明矣  
威不可殫計微妙之香无量无邊純雨如是无

量諸華雷其雨特復出種。妙音佛聲法聲比  
 丘偈聲三歸依聲夏修寒戒聲戒就八戒聲出  
 家十戒聲布施聲持戒聲清淨梵行具大戒聲  
 助法策蕪聲讀經聲禪思惟聲觀不淨聲念出  
 入息聲非想非一想聲有想无想聲識慶聲空  
 慶聲八勝慶聲十二入聲空慧聲空聲无相  
 聲无作聲十二緣聲與惡聲上聞聲緣慈聲具  
 是六聲齊嚴羅密聲於其華中出如是等聲色界  
 諸天皆悉聞之。善者所作諸善本各隨體念所有  
 不善尋自悔責即便來下。繁繁世蒙教化世間无  
 量衆生志令得位於下善中欲界諸天亦得勝如  
 前。何所有愛結貪恚五欲諸心教法志得安靜本前  
 所作諸善根本各自憶念所有不善尋自悔責即  
 便來下。娑婆世界教化世間无量衆生志令得任

於十善中世尊如是諸華於虛空中復當化作種  
 種珍寶金銀摩尼真珠瓊離珂貝璧玉真寶為  
 寶鳥鵄珊瑚天冠寶飾如雨而下一切遍滿娑婆  
 世界令持人民其心悅悅无諸鬪爭飢飢疾病他  
 方惡賊惡口諸毒一切消滅皆得安靜。余時世界  
 有如是藥若有衆生見諸珍寶為觸若用於三  
 善亦无有是轉是諸珍寶作是利益已遂復捨地  
 至本住慶金對地降  
 世尊安樂世界乃無劫特我身舍利後當化作  
 銷融瑠璃從地下方而出上至阿迦尼吒天雨種  
 華華曼陀羅華摩訶曼陀羅華波利伽多華乃  
 至遠漫於地。至本住金對地降  
 大衆悲奉飽利摩嘉五。我涅槃後其有衆生於  
 我法中能受一戒乃至讀誦一四句偈。供養法師

能以一花或沉一札令彼一切隨折三業得不退  
 轉乃至三滿蓋法燈乘滅法幢樹已令我舍利乃  
 至入地金輪止住持誦訶世界窮乏所濟令  
 成瑠璃珠灑如火色名曰慧意令從彼上乃至阿  
 迦尼陀降注雨種花令彼諸花出種上藥藥  
 醒王寶聲三歸依聲佛聲菩薩聲聲聲聲  
 聲醒八舍聲聲聲十去聲具說大乘六波羅蜜  
 出如是聲二界諸天未下令彼諸花空中震茂  
 雜寶所謂金銀摩尼瓊珠瑠璃車渠馬瑙及螺  
 湘珮席珀玫瑰右旋一切妙訶佛立令雨如是  
 等寶除滅訶真言詔飢餓疾病及他軍馬  
 惡風雜毒令安穩豐樂衆生見寶滿寶者  
 折三業法得不退轉令彼速下乃至金輪在  
 大論第一百云 佛竹沙羅雙樹入經釋以全

剛三林為衆生辟身如麻米中 婆娑世界要  
 轉增壽命日威飢餓劫楚一切衆生身色滿  
 裹骨瘦皮薄祖食草根或食子肉飢死失命  
 骸骨如山余特我舍利作瑠璃珠滅充無  
 量從地出取上要有頂周遍世東方作佛等  
 教化衆生若不念不感正覺大起五百八頌內第四百  
中一頌云  
 大乘悲心陀利經立願舍利神靈品云  
 無疾飢三灾却特我舍利變成餅王摩尼上至阿  
 迦尼陀降注雨種華令彼華出種上妙聲說  
 法令得安穩取意  
 依舍利處處地隨願成就  
 持世經第一云 我今雅得阿耨多羅三菩提精  
 進猶不休息至涅槃時備發精進辟身骨如  
 芥子解散枝節何以故憐愍未末世衆故我

先世行菩薩道時所化衆生或行錯誤隨諸難  
處欲勉濟之起大悲心分布舍利乃至如芥子  
許與神力我滅度後若有衆生應以舍利度  
者心得清淨得清淨已慶地中隨願成就諸  
善男子我先世行道時於衆生中成就如是悲  
心碎身舍利普使分布是我奉願我以如是吾  
重福德母緣大悲心故於後世普覆衆生

舍利降甘露散飢餓衆生

悲華經第七云 願我來世入涅槃後飢餓  
劫持送舍利珠出諸百味甘露飲食充滿鉢  
器如雨而下周遍國境飢餓衆生覺取食已  
身色殊妙放白圓滿一切皆如第三身身  
體劫名自然不聞皆修十善惡心布施施位不  
退地若不念者不我正覺 同四百卅六頌云

發內雜評

舍利化衆生更不留生死

舍利化衆生令發菩提心

舍利化衆生更不留生死

悲華經云 願我來世成正覺已入涅槃後舍  
利教衆生不遺一人留生死者過千恒河  
沙等阿僧祇劫後於十方無量無邊阿僧祇

世界令得正覺若不念者不我正覺 五百頌第  
四百卅六頌云

舍利化衆生令發菩提心  
悲華經云 願我來世成正覺已入涅槃後舍  
利任世所化衆生於十方界成正覺已各於衆  
會中當稱我名字而作是言過去久遠有佛  
名釋迦尊彼佛入涅槃後刀兵疫癘飢饉劫  
劫我等今特於其劫中受諸苦惱是佛舍利

劫我等今特於其劫中受諸苦惱是佛舍利

為我等故作種種神足師子遊戲是故我等因  
彼佛舍利教化力故即發菩提心終集善根  
今日得成心覺轉妙法輪教化衆生五百領內四百  
四十九

對舍利誦咒滅五逆重罪

建塔安舍利滅眾生罪業

廟舍利塔名消滅無間業

千手眼觀世音菩薩施施羅尼身經云

若欲受持此陀羅尼者每以五月五月九月  
一日至十五日受持者戒者淨衣三白食於舍  
利塔前或舍利像前以白檀香泥塗一四肘  
方壇取種種花香散於壇內佛前燒香燃燈  
持佛菩薩誕生恭敬心每誦此陀羅尼一千  
八遍至十五日夜得觀世音菩薩而未入是

壇內是人見已一切蓋障五逆重罪隨  
盡銷滅身口意業皆得清淨也

陀羅尼集經第十佛說摩利支天經云 壇中心

着佛像或佛舍利取羅迦沙鉢陀木此是菩提  
樹之別名

三千八百與酪糝蜜中塗之一火燒各一

段一咒如是盡三千八百作此法者滅除行

者五逆四重罪而得清淨名得咒驗

千手眼觀世音菩薩施施羅尼身經云

千手眼觀世音菩薩施施羅尼身經云千手眼觀世音菩薩  
施羅尼身經卷第六

若有善男子善女人具造十惡五逆等罪如閻

浮提履地變為微塵一一微塵成劫一劫是人

造若干等罪應墮地獄歷劫受苦永無出期

是善男子善女人能於舍利及佛像前白月

十五日一日一夜不食結印誦咒滿百八返如

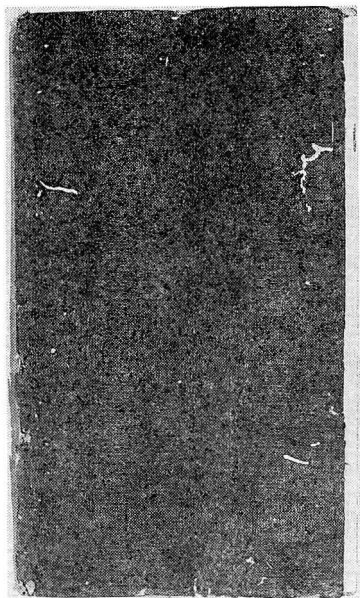
此諸罪苦悉皆消滅若不滅者無有是處



楚塔安舍利滅教生罪業  
 法苑珠林卷第七 引阿育王傳云阿育王得其  
 國王聚夫人得身長八尺幾亦同奇衆相具足  
 王令相師觀之相師言當為王金色之子王即  
 拜為第二夫人後遂有身滿歲十月王有緣一  
 事直出外行王太后嬖孽欲除之即作方便竟  
 猪子胎說生時落第二夫人宮汝是少甫不  
 始產不可露而觀天以被而覆而即生金色  
 之童亮懸宮中盜見教之以猪彘者甚遠使  
 念罵辱因後園令豚彘王還聞之不悅行園  
 避寂歸宮夫人漸得親近具說情狀王聞驚怖  
 即斂八万四千夫人佛知王斂諸夫人應墮地獄  
 罪重猶故以無他王人發信悟問以丘言教八万  
 四千夫人罪可得贖不以丘言各為一人赴一

塔下者一舍利當得脫罪耳王即取阿闍世王  
 塔舍利分與鬼神一日一時赴八万四千塔  
 廟舍利塔名消滅無凋業  
 相輪椽施羅尼者  
 善男承應當如法書寫與施羅尼控相輪椽四圍  
 安量又屬此咒切能祛散穢中心者為安量佛舍  
 利若有衆生若燒此塔或一札或一合掌或以一  
 花散或以一香燒以鈴聲憐蓋而供養者是則  
 成就廣大善根福德之聚若有飛鳥蚊虻等至  
 塔中當得受託於阿耨多羅三藐三菩提而  
 不退轉若遠見此塔或聞鈴聲或聞其名彼人  
 所有五無間業一切罪障皆得消滅常為一切  
 諸佛護念得於如來清淨之道 取意





裏表紙